

平成26年度 第3回 ハタハタ資源対策協議会資料

1 秋田県のハタハタ漁獲量

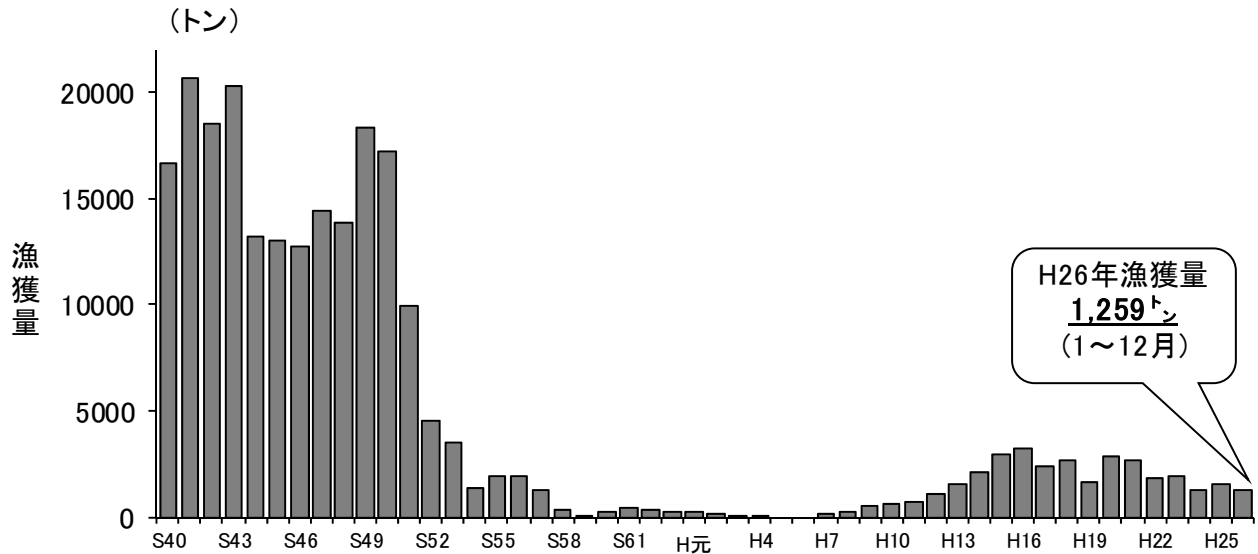
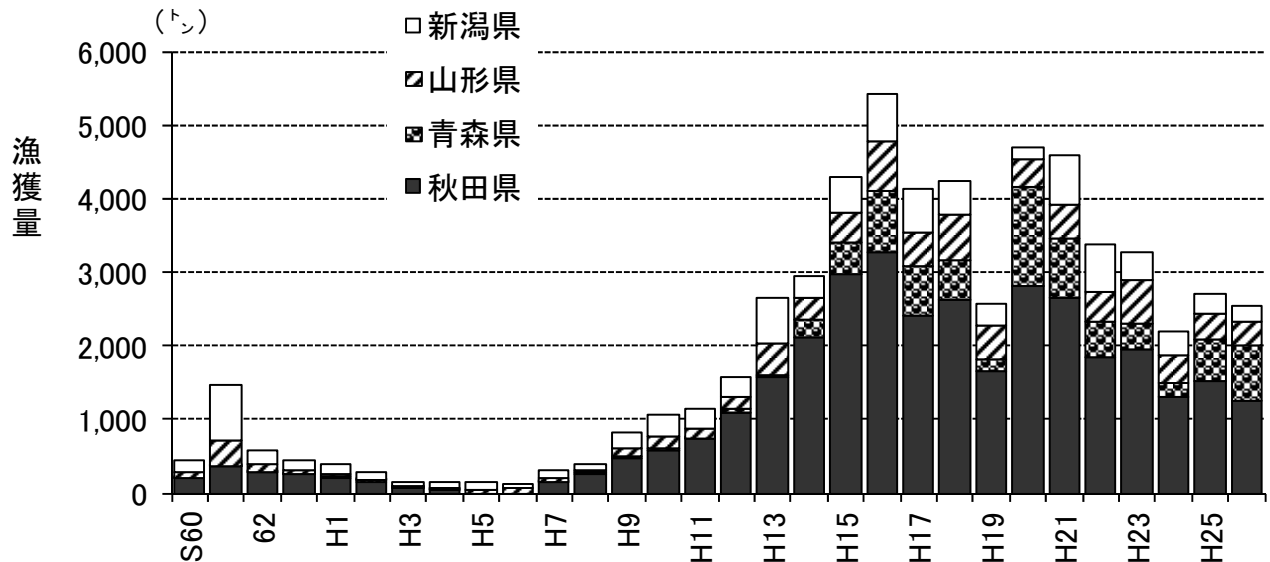


図1 秋田県のハタハタ漁獲量
(H25年まで農林統計、H26年は秋田県調べ)

●H26年1～12月の漁獲量は1,259トで、前年(1,509ト)の 0. 8 倍 となった。

2 日本海北部4県の漁獲量



3 漁獲枠と漁獲実績

表1 秋田県におけるハタハタ漁獲枠と漁獲実績の推移

年	沖合			沿岸			合計		
	漁獲枠	漁獲量	実績(%)	漁獲枠	漁獲量	実績(%)	漁獲枠	漁獲量	実績(%)
平成 7年 ※1	85	54	63	85	89	104	170	143	84
8年 ※1	110	86	78	110	157	143	220	243	111
9年	180	148	82	180	280	155	360	428	119
10年	300	162	54	300	438	146	600	599	100
11年	400	142	36	600	580	97	1,000	722	72
12年	400	265	66	600	902	150	1,000	1,166	117
13年	520	506	97	780	986	126	1,300	1,493	115
14年	680	384	57	1,020	1,570	154	1,700	1,954	115
15年	960	907	94	1,440	2,051	142	2,400	2,958	123
16年	1,000	707	73	1,500	2,349	157	2,500	3,055	122
17年	1,000	489	49	1,500	1,867	124	2,500	2,356	94
18年	800	944	118	1,200	1,640	137	2,000	2,584	129
19年	720	847	118	1,080	765	71	1,800	1,612	90
20年	1,200	868	72	1,800	2,035	113	3,000	2,903	97
21年	1,040	1,054	101	1,560	1,475	95	2,600	2,530	97
22年	960	457	48	1,440	1,277	89	2,400	1,734	72
23年	1,120	677	60	1,680	1,287	77	2,800	1,964	70
24年	1,080	376	35	1,620	931	57	2,700	1,307	48
25年	768	624	81	1,152	898	78	1,920	1,522	79
26年	672	265	39	1,008	940	93	1,680	1,205	72

※1 平成8年までは沖合、沿岸とも暦年、平成9年以降は管理漁期（9月～翌6月）の値

※2 今漁期は沿岸は1月15日、沖合は2月26日までの値

4 漁獲量と漁獲金額

表2 ハタハタ漁獲量と漁獲金額の推移（秋田県調べ）

年	漁獲量(トン)			漁獲金額(千円)			単価(円/kg) ※3		
	沖合	沿岸	合計	沖合	沿岸	合計	沖合	沿岸	平均
7年 ※1	54	89	143	196,724	239,821	436,545	3,658	2,703	3,063
8年 ※1	86	157	243	224,558	280,367	504,925	2,607	1,783	2,075
9年	148	280	428	218,367	477,568	695,936	1,474	1,706	1,626
10年	162	438	599	202,342	411,845	614,187	1,252	941	1,025
11年	142	580	722	190,537	597,957	788,495	1,338	1,031	1,091
12年	265	902	1,166	186,801	557,096	743,897	706	618	638
13年	506	986	1,493	450,761	638,527	1,089,289	890	647	730
14年	384	1,570	1,954	214,761	530,312	745,072	559	338	381
15年	907	2,051	2,958	452,811	606,298	1,059,109	499	296	358
16年	707	2,349	3,055	272,221	678,022	950,242	385	289	311
17年	489	1,867	2,356	236,381	555,949	792,329	483	298	336
18年	944	1,640	2,584	365,188	458,605	823,793	387	280	319
19年	847	765	1,612	494,974	296,431	791,405	584	387	491
20年	868	2,035	2,903	257,041	346,654	603,695	296	170	208
21年	1,054	1,475	2,530	305,754	293,277	599,031	290	199	237
22年	457	1,277	1,734	214,136	352,280	566,416	468	276	327
23年	677	1,287	1,964	275,345	265,686	541,031	407	206	275
24年	376	931	1,307	196,639	344,001	540,640	523	369	414
25年	624	898	1,522	255,740	320,009	575,749	410	356	378
26年 ※2	265	940	1,205	156,020	288,459	444,479	589	307	369
H26/H7	4.9	10.6	8.5	0.8	1.2	1.0	0.2	0.1	0.1
H26/H25	0.4	1.0	0.8	0.6	0.9	0.8	1.4	0.9	1.0

※1 平成8年までは沖合、沿岸とも暦年、平成9年以降は管理漁期（9月～翌6月）の値

※2 今漁期は沿岸は1月15日、沖合は2月26日までの値

5 漁獲金額と単価

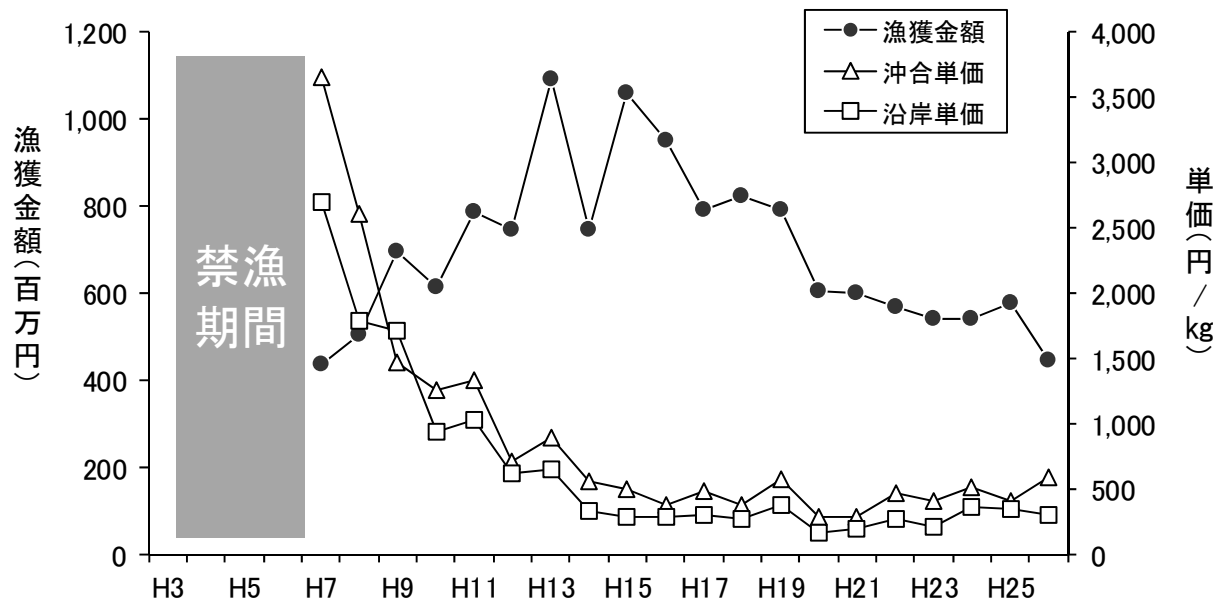


図3 ハタハタの漁獲金額と単価

※ 平成8年までは沖合、沿岸とも暦年、平成9年以降は管理漁期(9月～翌6月)の値

※ 今漁期は沿岸は1月15日、沖合は2月26日までの値

- 今漁期の漁獲金額は4億44百万円であった。漁獲量は前年比0.8倍に減少したのに伴い、漁獲金額も前年比0.8倍に減少した。
- 1kgあたりの単価は、沖合が589円（前年比+179円）、沿岸が307円（-49円）であり、沖合は前年漁期より上昇したが、沿岸は低下した。

6 沖合・沿岸別漁獲割合

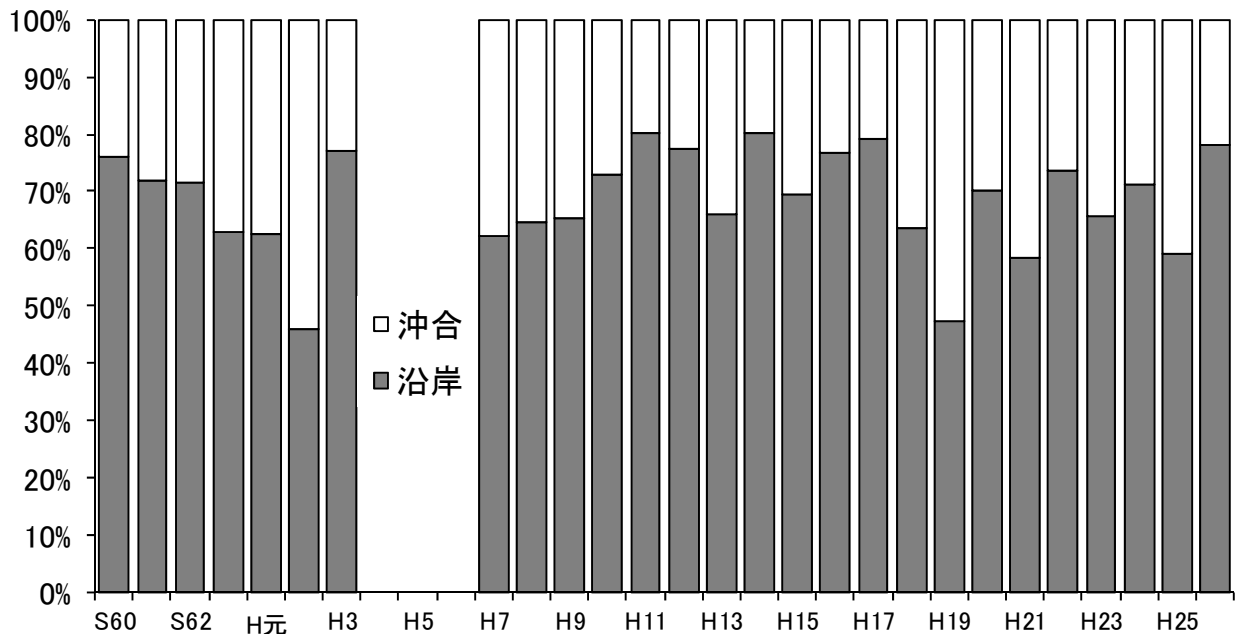


図4 秋田県における、沖合・沿岸別漁獲割合

※ 沖合、沿岸とも管理漁期(9月～翌6月)での漁獲量(水産漁港課調べ)

- 今漁期の沖合の比率は20%であり、前年(41%)より大幅に低下した。

7 底びき網漁獲量の推移

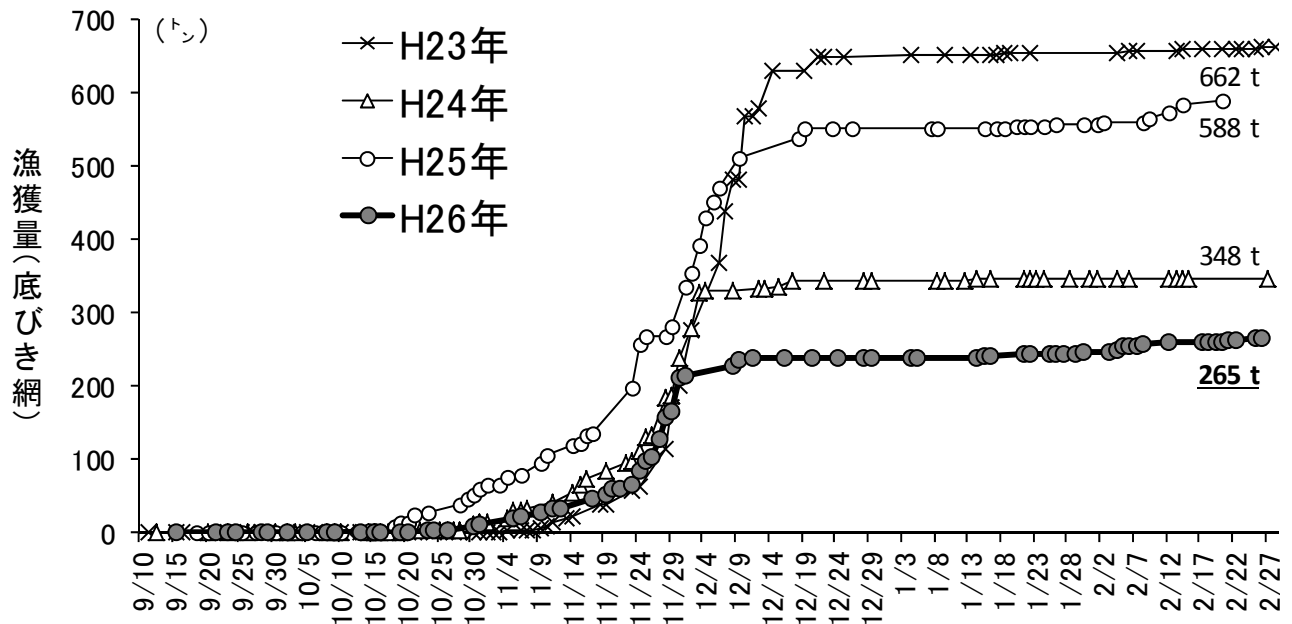


図5 底びき網漁獲量の推移(全県)

- 初水揚げは9月15日で、南部で3kgが水揚げされた。
- H27年2月26日時点の漁獲量は265トン（漁獲枠の39%）で、H25年漁期の同期の45%に留まった。

8 底びき網漁獲量の地区別推移

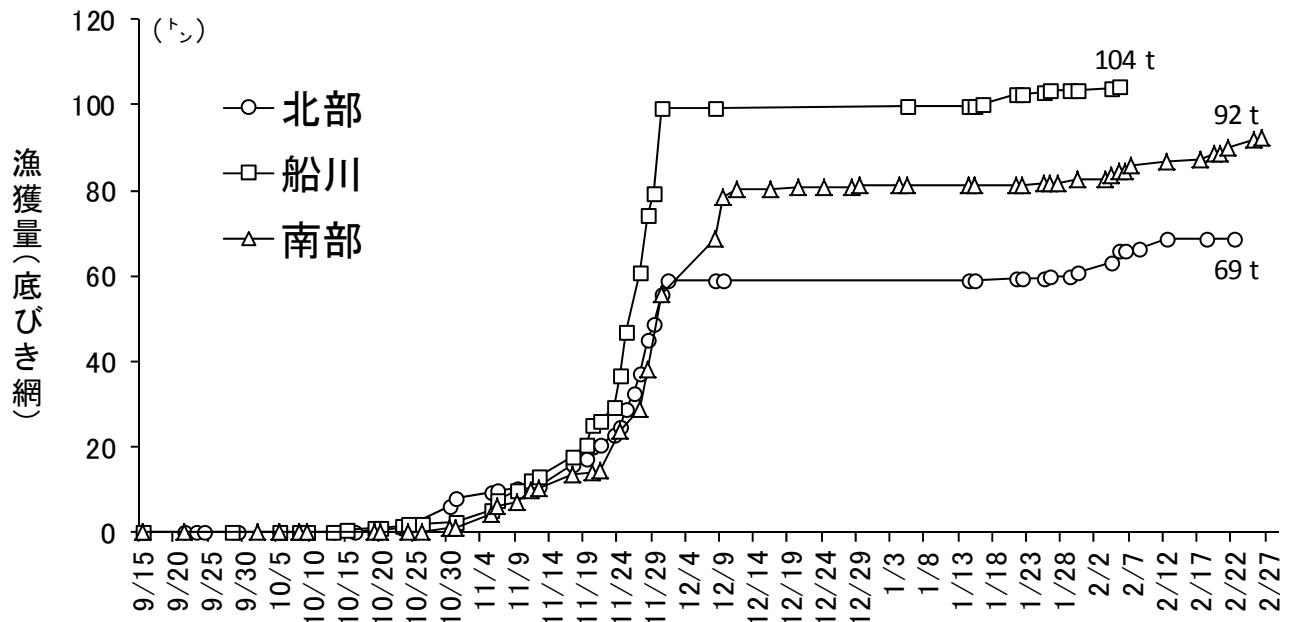


図6 底びき網漁獲量の地区別推移

※北部(岩館・北部総括)、船川(椿・船川総括)、南部(南部総括・象潟・平沢)（秋田県調べ）

- 10月の主漁場はシグレ周辺であり、昨年漁期に好調だった戸賀沖での漁は低調だった。
- 11月には全県的に漁獲されたが、群れの規模は概ね小さかったと推察された。
- 12月は時化により、有漁日数は特に船川(1日)と北部(3日)で例年に比べかなり少なく、また群れも小規模だったと考えられる。

9 沿岸漁獲量の推移

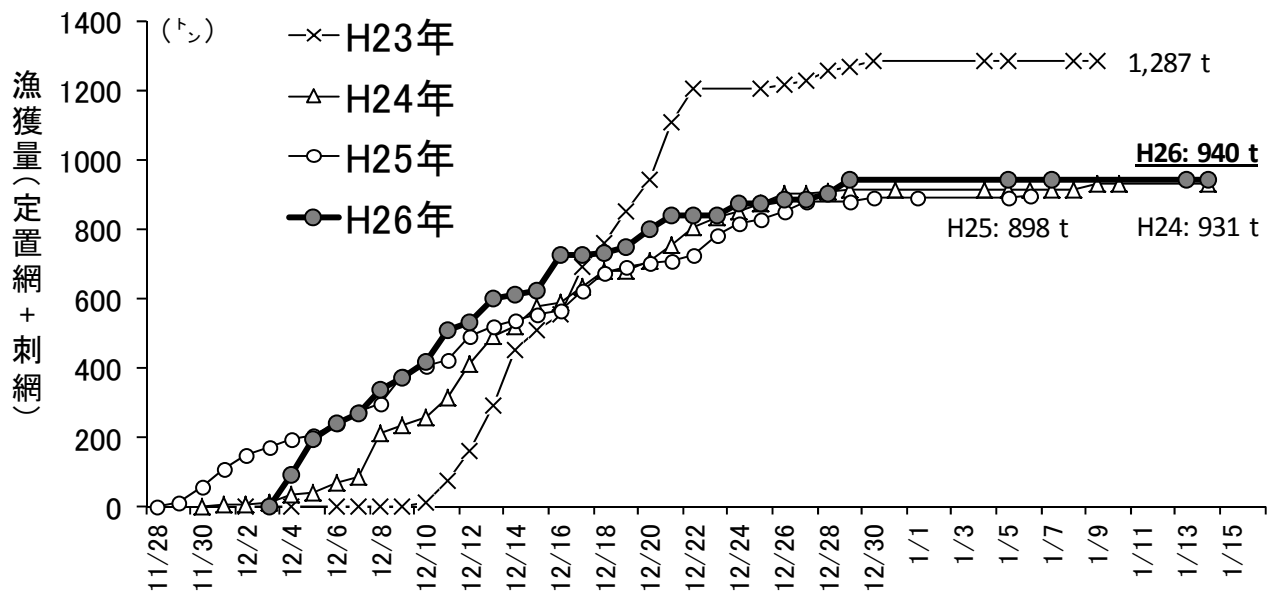


図7 沿岸漁獲量の推移(全県)

- 初漁日は12月3日で、H25年漁期(11月28日)に比べて5日遅かった。
- 初漁日には男鹿北部(北浦)で1.2ト、男鹿南部(船川)で0.2トが水揚げされた。
- 今漁期の漁獲量は940ト(漁獲枠の93%)で、H24年以降ではほぼ同様の水準である。

10 沿岸漁獲量の地区別推移

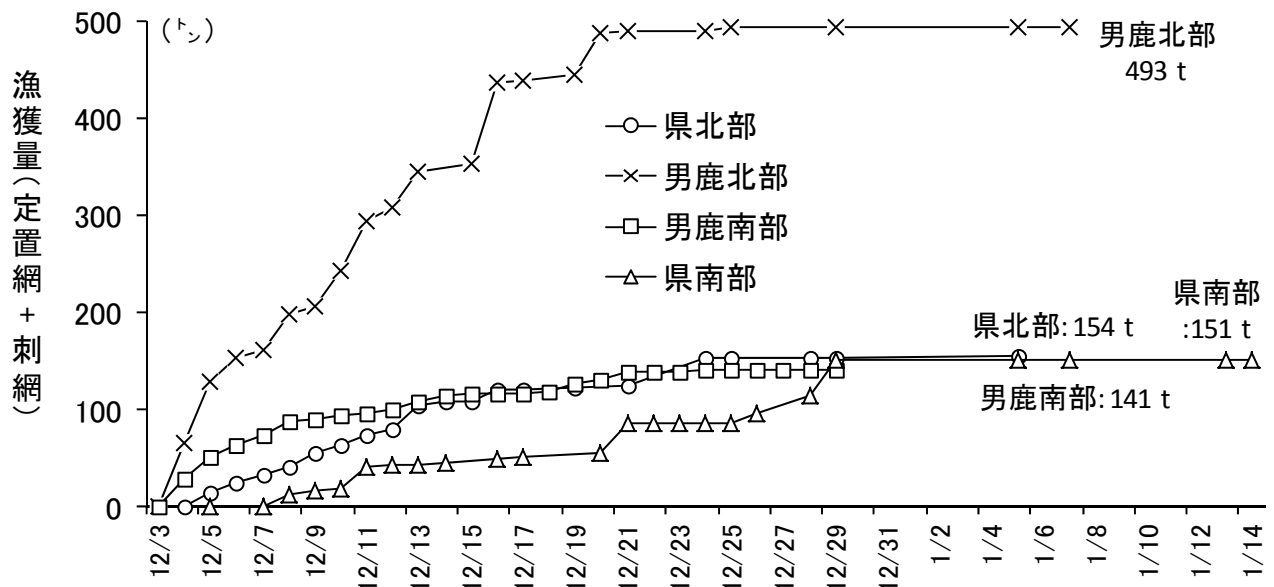


図8 沿岸漁獲量の地区別推移

※県北部(岩館～八竜)、男鹿北部(若美～戸賀)、男鹿南部(樺～天王)、県南部(秋田～平沢)
(水産漁港課調べ)

- 男鹿北部の漁は好調に推移し、漁獲量は493ト(前年比1.7倍)に達した。
- その他の地区は、それぞれ150ト程度を漁獲しており、いずれも前年を下回った。

11 沖合と沿岸の漁獲量

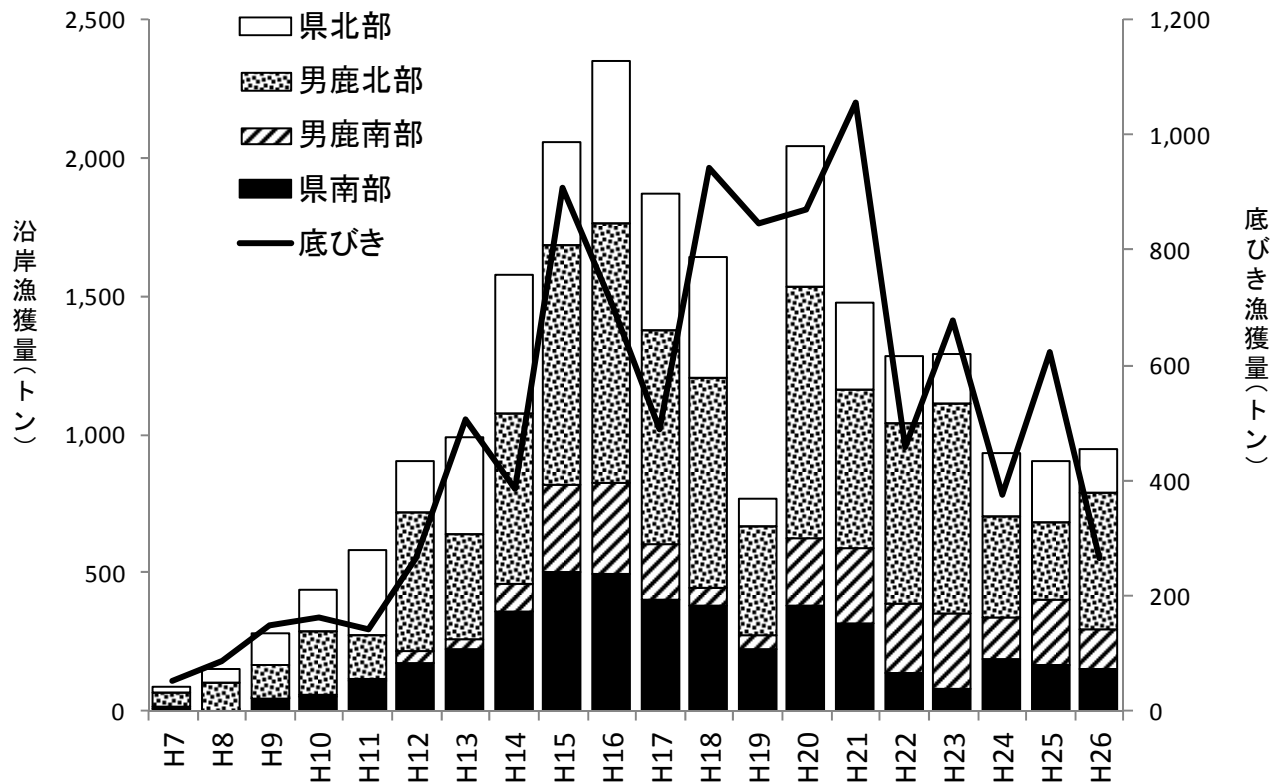


図9 沖合（線グラフ）および沿岸（棒グラフ）での漁獲量の推移

※沿岸漁獲量は県北部（岩館～八竜）、男鹿北部（若美～戸賀）、男鹿南部（椿～天王）、県南部（秋田～平沢）とし、H8年まで暦年、H9年以降は管理漁期（水産漁港課調べ）

※H26年漁期の底びき漁獲量はH27年2月26日までの値

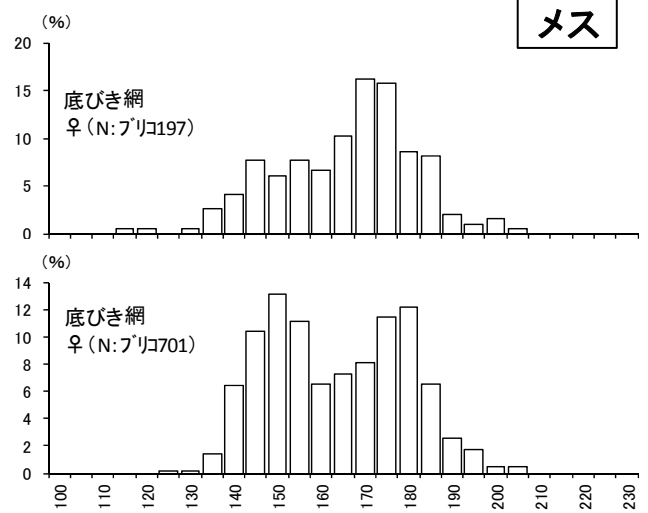
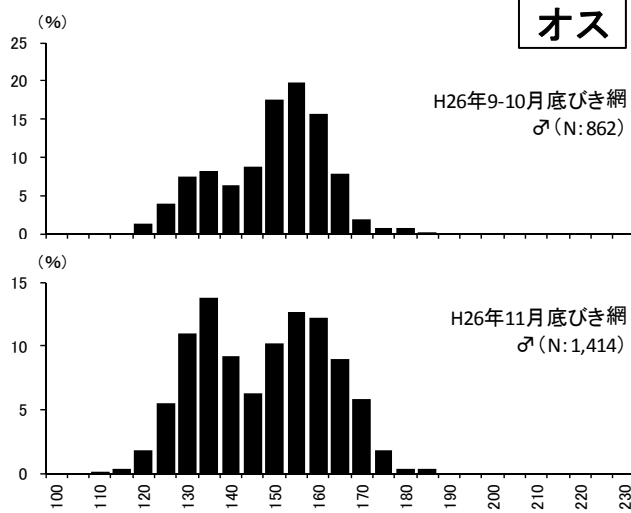
●底びき網漁獲量は減少傾向にあり、漁場に来遊した群れの規模も小さかったと考えられる。

●男鹿北部での漁獲量は昨年漁期よりも大きく増えたが、他の地区では減少した。

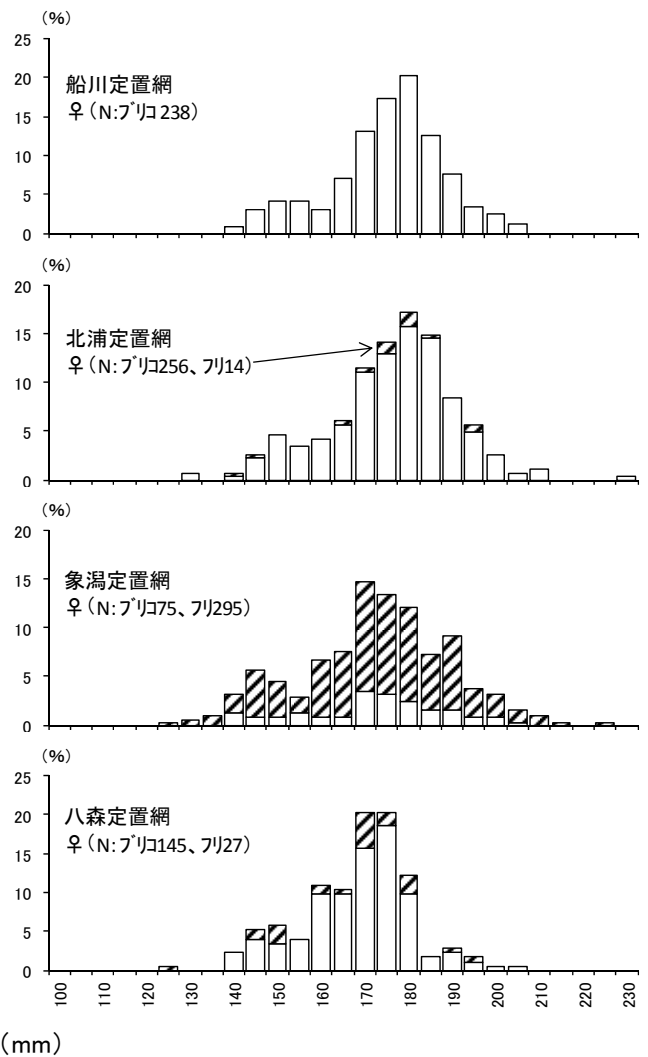
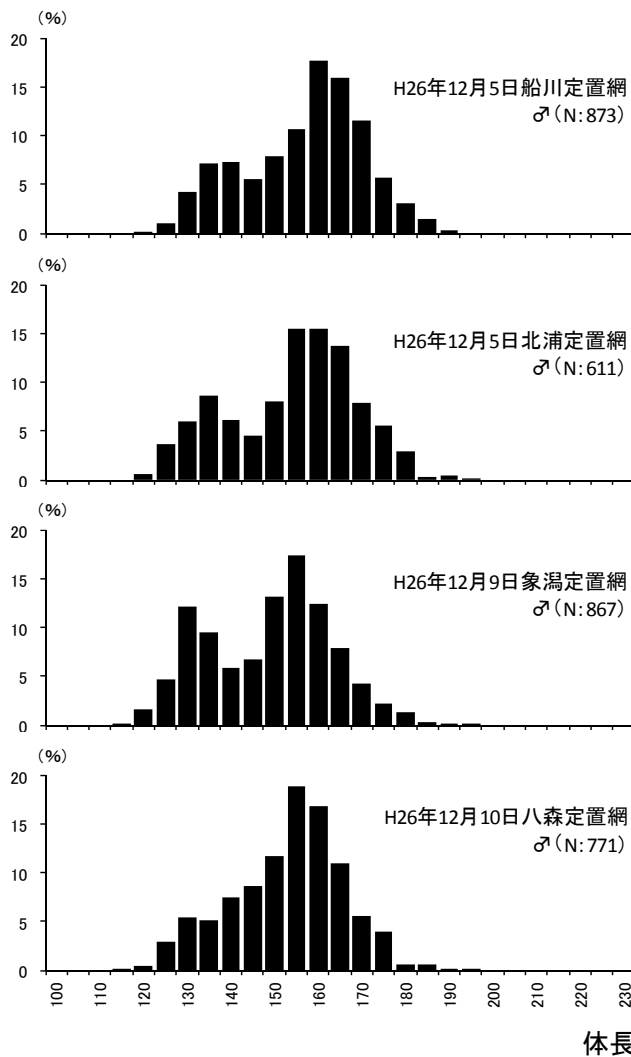
→ ハタハタ資源は低水準の状態が続いていると考えられる。

12 今漁期のハタハタ体長組成

【底びき漁場】



【定置漁場】



体長(mm)

図10 H26年漁期の底びき網漁と定置網漁で水揚げされたハタハタの体長組成

- 底びき網では、10月まで2才の割合が高かったが、11月には1才の割合が高まった。
- 定置網では、全体的に2才以上の割合が高かった。

13 今漁期の定置網による漁獲物の体長組成に、目掛かり個体を与える影響

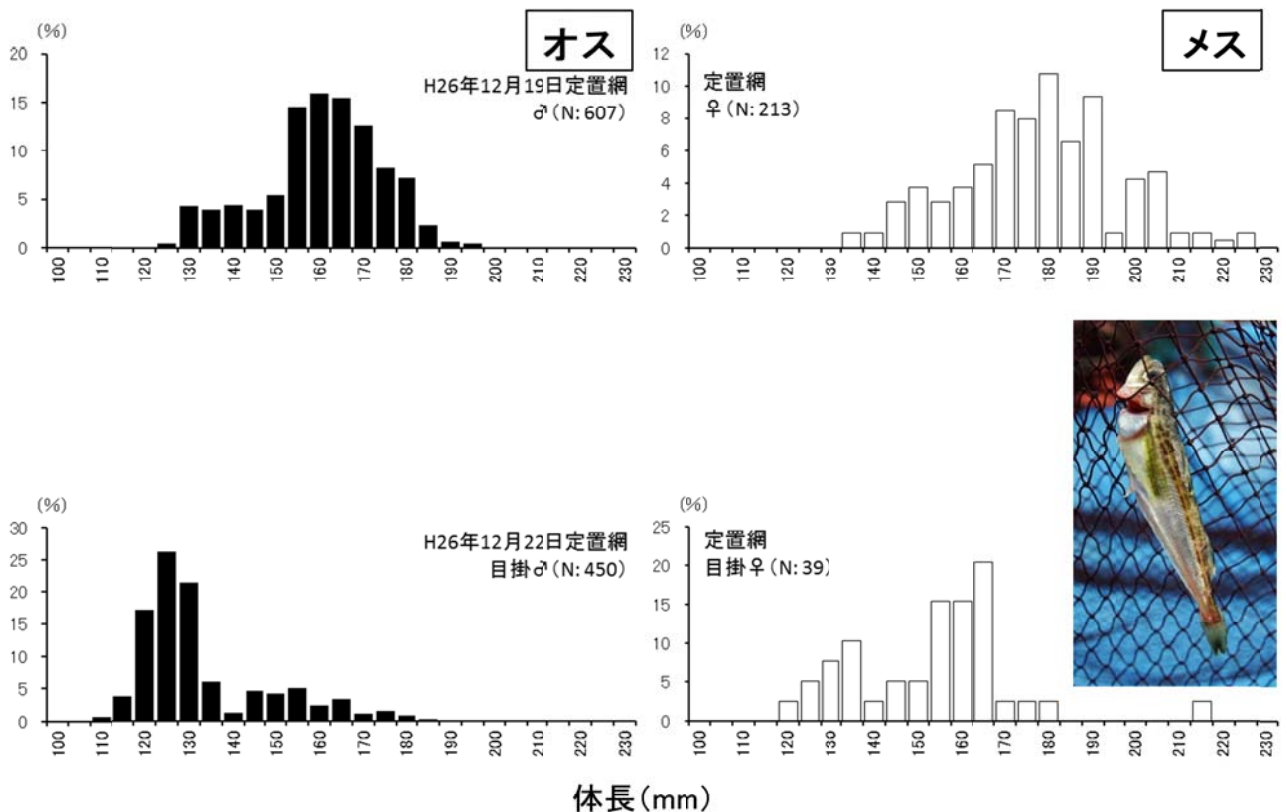


図11 定置網で水揚げされたハタハタ(上)と、同じ定置網に目掛かりした個体(下)の体長組成（網目合いは10節. 目掛かり個体は、定置網の運動場とたまりを陸上に引き揚げて全て回収した）

●10節の網には、1才のうち、より小型の個体(主にオス)がかなり目掛かりしている。

→底びき漁場にいた1才魚は、

- 定置漁場に来遊したが、漁具に目掛かりして水揚げされなかった可能性が高い。
- 1才は重要な資源であり、これらを逃がすための漁具改良が必要。



◎これまでの試験では、

「網の糸太さ 12号以上」で「目合8節」の網地を たまり などに使用すれば、
目掛かりさせずに 1才魚を効率よく逃がす ことができることが分かってきた。

低水準にあるハタハタ資源への漁業の影響をできる限り軽減するため、
1才魚を積極的に逃がし、翌年以降の資源につなげる取り組み が必要！

14 沖合漁場から沿岸漁場にかけての海況条件

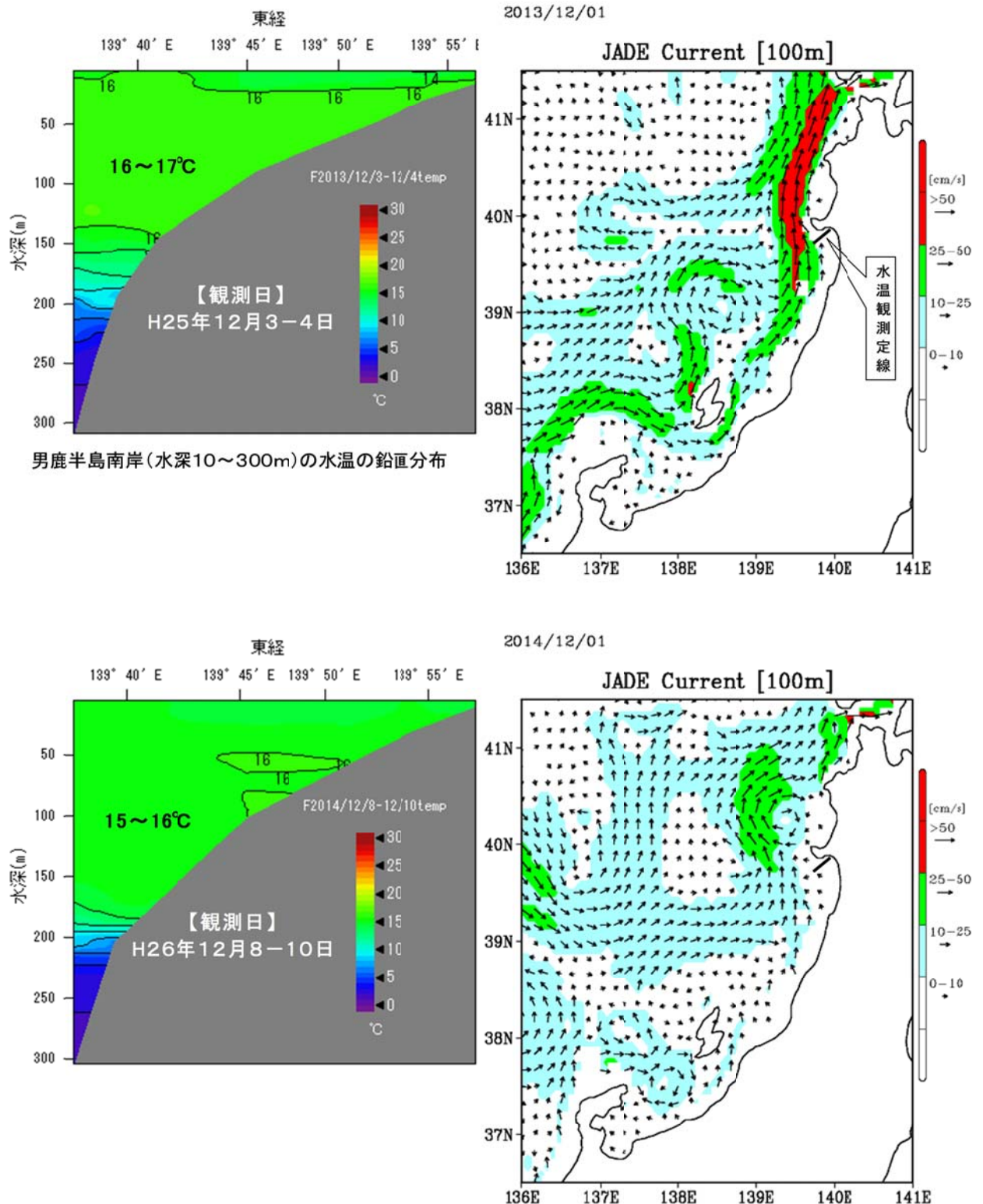


図12 秋田県沿岸におけるH25年(上)とH26年(下)のハタハタ初漁日付近の水温分布および流向・流速

(水温は千秋丸観測, 潮流図は日本海海況予測システム(JADE)より引用 <http://jade.dc.affrc.go.jp/jade/>)

- 12月上旬の男鹿半島南部の海底付近の水温は、H25年漁期は16℃以上の海水が水深150mから浅場まで続いていた。今漁期の海底付近の水温は、昨年と同程度かやや低かった。
- H26年漁期は、H25年漁期に比べて男鹿半島西方の北向きの流れがかなり穏やかだったと考えられる。

15 藻場内におけるハタハタの卵塊密度

表3 ハタハタ卵塊密度の推移

（個/m²）

地区	定点※	調査年（産卵年の翌年：2006年は3月に、他の年は1～2月に実施）												
		2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
岩館	Stn. 1（小入川）	173.8	14.7	75.5	14.9	7.2	2.3	1.4	3.0	11.8	10.0	19.5	10.5	26.0
	Stn. 2（小入川）	231.8	39.4	6.4	N.D.	27.5	86.9	0.9	2.0	1.1	2.4	2.8	N.D.	2.2
八森	Stn. 3（漁協脇）	116.8	25.3	23.0	59.2	67.8	57.7	7.7	85.1	53.5	71.0	250.8	11.7	42.5
北浦	八斗崎 Stn. 1（0.5m）	19.7	9.9	17.7	2.9	4.5	9.6	189.9	137.1	128.9	91.8	136.6	N.D.	36.0
	八斗崎 Stn. 2（1.5～2m）	12.6	70.1	13.3	0.5	0.7	0.1	1.5	1.4	1.0	6.3	2.4	N.D.	0.5
	湯の尻 Stn. 1	1.9	16.3	1.8	2.1	6.1	2.6	42.1	13.6	14.6	2.5	7.4	N.D.	0.8
	湯の尻 Stn. 2	4.5	26.2	20.6	10.0	2.9	7.9	11.0	7.0	11.5	5.7	4.7	N.D.	1.1
船川	備蓄 Stn. 2	3.0	17.7	72.5	61.6	46.6	263.3	271.2	289.6	273.7	253.4	150.4	32.7	46.7
	備蓄 Stn. 3											154.3	626.8	758.7
平沢	Stn. 2（鈴分港）	34.9	69.8	288.7	51.6	102.5	37.5	162.3	34.2	64.2	12.1	68.3	N.D.	344.4
象潟	Stn. 3											45.4	N.D.	75.9

※ 昨年までに調査を終了した地区については、前年度の本資料を参照。 N.D.は調査データがないことを示す。

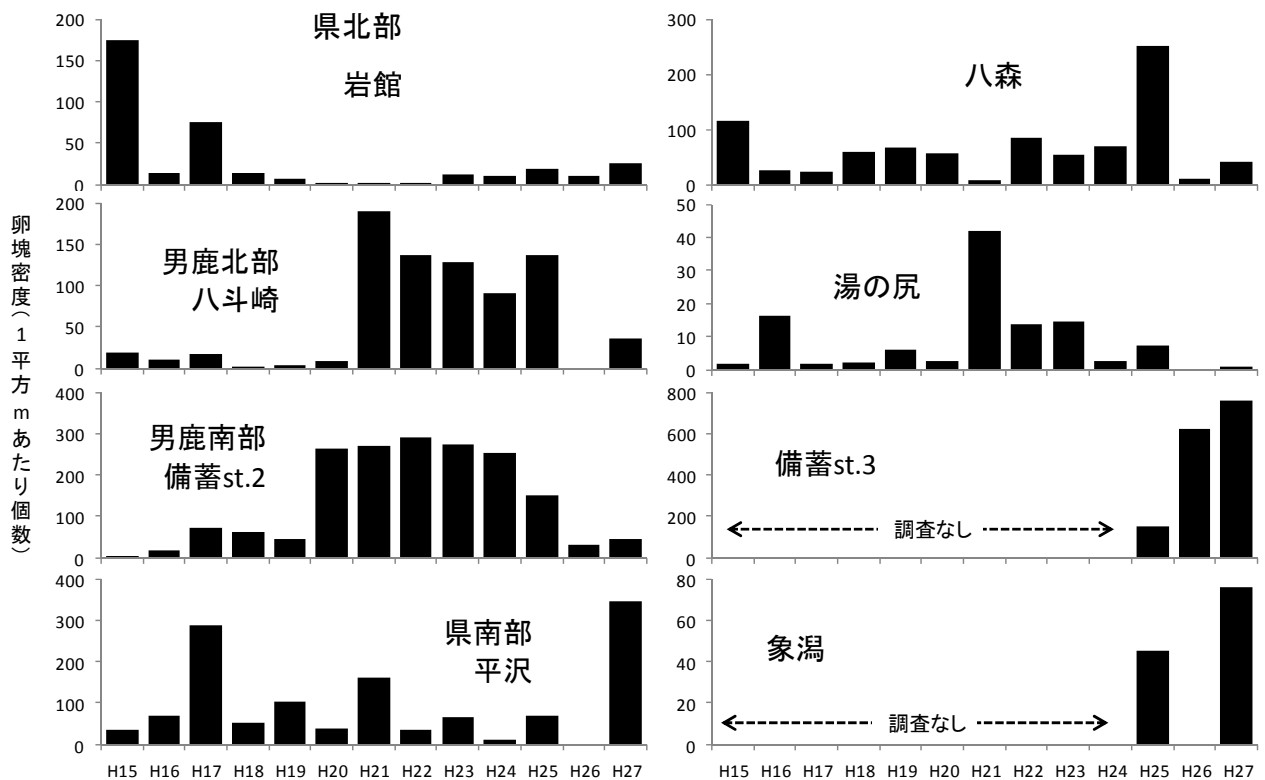


図13 秋田県沿岸におけるハタハタの卵塊密度

- 県北部の卵塊密度は平年並みだったが、男鹿北部の密度はやや低下傾向にある。
- 男鹿南部では昨年と同等かそれ以上の高い卵塊密度であった。
- 県南部はここ数年では密度がかなり高い。

16 海岸に漂着したハタハタ卵塊（打ち上げブリコ）の重量

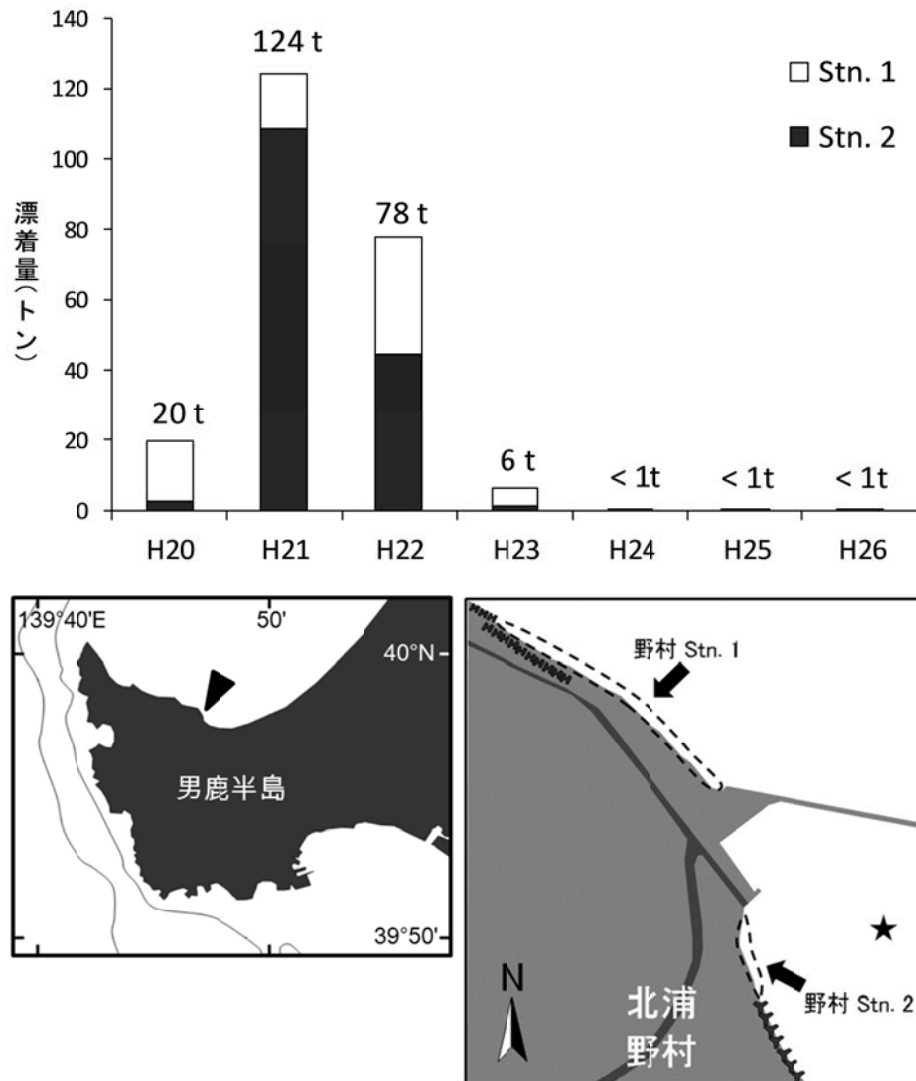


図14 北浦野村への漂着量の年変化(各年12月)

- H26年12月の北浦野村海岸への漂着量は1トン未満であり、ここ数年非常に少ない。
- 12月には県南部平沢で1～2トン規模の漂着を確認した他は確認されず、漂着量はH25漁期と同様、全県的に少なかったと推定される。

H26年ハタハタ漁期のまとめ

【特 徴】

- ◎ 底びき網漁は11月まで低調に推移し、12月は時化により不漁
- ◎ 定置網漁は男鹿北部（北浦）では比較的好調に推移
- ◎ 新潟～秋田沿岸でのハタハタ漁獲量は昨年につき低水準
- ◎ 青森県日本海沿岸では昨年につき漁獲量が多い

【背 景】

- 11月下旬から12月上旬における男鹿半島周辺の水温条件や流況は、前年漁期に比べて男鹿半島周辺へのハタハタの接岸に好適な条件だったと考えられる。
- 新潟～秋田沿岸での低調な漁模様、本県沿岸での産卵状況などから、ハタハタ資源は依然として低水準と考えられる。
- 青森県沿岸で漁獲量が増加している原因については明らかではないが、水温や流況との関係を検討中。

【必要な対策】

- 秋田県沿岸への来遊資源は、来年漁期も大きく増える状況には無いと考えられる。小型魚は積極的に逃がし、翌年以降の漁業資源・産卵親魚として活用する必要がある。